

8月2日（金）

前日と打って変わって、名古屋は朝から暑い。二日目は中学の先生対象の教室である。

### 1時間目 加藤一誠先生講義「よりよい生き方を経済で考える」

この講義は、中学生向けに作成した新しい教材（日本経済教育センター「幸せの人生を“経済しよう”」）の紹介とその解説が進められた。この教材は、中学生だけでなく、高校生や大学生でも利用可能である。



講義をする加藤先生

#### 1 機会費用の理解を

人生は選択である。選択の際に必要な機会費用という概念を無理なく定着させる目的である。まずは、二人に告白された どちらにする？ 二股かけられないとすると、一人を選べばもう一人はあきらめなければいけないという状況から考えさせる構成にしている。

もう一つのねらいは、データを読ませることである。ここでは、進学率が上がっていることを確認。そのうえで、文系私立に進むといくらかかる？ クイズを出す。これまでの実験授業では、だいたいあたる。

そこを踏まえて、もし、大学にいかなかったらどのくらい稼げる？を確認する。データは賃金センサスを使う。そうすると、400万だとおもっていたコストは、実は800万もプラスで、合計1200万円が進学のコストであると分かる。

例えば、大学生の1時間あたりの講義の費用は1時間約6600円になる。（1分110円）比較、カルロス・ゴーンは100円が落ちていても拾わないのが合理的。そのようにして、時間の価値を理解させる。倫理的、道徳的な話（時間の大切さ）にも拡張するとよい。カネカネじゃないぜということである。

#### 2 キャリア教育にも使える

ここからは就職、仕事編となる。

学生が認識する不足しているものと、企業が不足していると認識しているもののギャップを図から読み取らせる。社会に出てどのくらいが管理職になっている？給料の差も確認する（賃金センサスを使うと良い）。

フリーターがどのくらいいるのか？（プリントにはない）も紹介するとよい。答え、260万人（大阪市と同じくらいの人口）。

ここから少し話を進める。賃金の年間所得の差を確認したうえで、ひとそれぞれ満足の差が違う、リスクに対する反応の違いがあることを紹介。

リスク愛好型、リスク回避型、リスク中立型

職業観は多様である。職業選択も多様であることも紹介したい。

雑学：運転手の高齢化、若い人は少ない、タクシー運転手の年収は300万円弱。なぜこんなに低いかというと、年金受給者が結構多いからやってゆけるのである。トラック運転手も同じ（中型、大型の区別が問題）。

#### 3 結婚や出産にも触れる

次の結婚がメインイベントで作った教材。

少し古いが『国民生活白書』の結婚特集にデータがある。そこから作ったクイズをやる。その結果、重視する項目に男女差がかなりくっきりでる。学生の恋愛感がかなり出てくる。さらに、女性が結婚・育児で失われるもののデータを読む。ただし、遺失率は説明しない方がよい。

かなりショックな数字で、結婚をすると2億2000万円の遺失が出ることが分かる。また、結婚しているか、していないかの差からは、相手の男にどれだけの値札がついているかが分かる。さらに、家事、子育てによって制限されることのデータを読ませる（NHKの時間調査）。これを読ませると、先行きが暗くなるが、あえてきちんとしたデータを出すことがこの教材のねらいでもある。

ただし、家族とのしあわせは、ここには数字としてでていないことを確認したい。

#### 4 未来予想をさせる

シート（私の未来予想図）のアンケートをとり、考えさせる。このシートは、事前にやっても良いし、事後でもよいが、事後のほうが良いとおもう。

アンケートの結果（中学校のケース）では、失われるものを考えながら選択したいなどが出てきた。

教材としての長所

つまみぐいができる。

ポイントはさりげなく、大上段にかまえないことが大事だとおもう。

生徒さんに説教するよりも、これをやらせて自分の立ち位置や将来を考えさせるほうが浸透しやすいと思う。

#### 質疑

1 職種の選び方にバイアスがあるのではないかと生徒がイメージできないものがあるのではないかと？

答え たしかにそういう面もあるかもしれない。学校に応じて職業を変えたりすることもありだろう。教員用のガイドを作る際にバリエーションを用意したい。

2 所得と満足度のグラフで効用というのがあるが、効用とは何かはあいまいなのではないかと？ また、中学生に理解できるかと？

答え これは効用関数を使ったものなのだが、たしかにご指摘のとおりかもしれないので、確定版を作るときに再検討したい。

3 お金の効用は逡減しないのか？

答え する。だから、この数字は現在の時点で将来を見たものである。

#### 補足

時間価値の考え方：青春18切符は時間コストが低い人向け。お年寄りも時間コストが低い。

時間価値はどんなところに使われているか。その例：道路整備ケースがある。

時間節約の便益、それがコストを上回っているから道路を作る。

高齢者の時間価値はどうするかが問題（時間価値は0）。しかし、効用はあるので時間価値ありとして道路整備をしている。

## 2時間目 三枝利多先生+篠原総一先生「経済の授業をエコノミストと作るく私たちが暮らす市場経済とは？」

三枝先生からの授業提案と体験型授業の実際ら話がはじまる

### 1 授業の作り方

まずは、学習指導要領を読むことから始めたい。そこから家計、企業、政府の共通点は希少性と選択の問題ということを出した。

生徒は経済が難しいというが、生活の基盤なのでぜひ理解させたい。そのために、分業と交換をつかませる例として、住宅メーカー職場シミュレーション教材を開発した。

### 2 体験型授業の実際

本日は、その模擬授業を実施したい。

無人島ゲームを取り上げる。質問を募りながら進める。



提案する三枝先生



話し合いをする先生方

ミッション1 まずやること

ミッション2 少したって人間がいることが分かったさて？

ミッション3 多数になった時にやるべきこと

(先生たちは熱心に取り組み、話し合いでは笑いもでる、発表も積極的であった)

ここから発展させて、住宅メーカーのシミュレーションになるが、本日は時間の関係もあり、ここまでとする。

### 篠原先生のコメント

エコノミストの不満は、公民、社会科で何を教えるのかがあいまいな部分があるのではないかという点である。教科書も同じで、検定をしていて、何を教えるのかがあいまいな記述が多く、いやになることが多い。その意味で、中学の先生の責任は重大である。社会に関して学ぶことはこれ以降ほとんどない。全員がしっかり勉強するのは中学公民が最後と思って欲しい。しかし、今のままでは、自分が生きている社会がどんな社会なのか、生徒がしっかり理解して、その知識が役に立っているのかが疑問。中学公民も高校公民も経済学概論の目次をなぞっているだけである。

社会という構造、しくみを中学生なりに理解させるためにはどうしたらよいか、どんな問題があるか、どんな社会が理想かをしっかり考えさせて欲しい。経済学を教えるのではなく、経済の仕組みを教えるようにして欲しい。社会保障のしくみ、金融のしくみ、財政のしくみ、市場のしくみなどを中学生なりに知って欲しいと感じている。

しかし、今の教科書では十分にうまくゆかないと思い、三枝先生の協力を得て、教材を作成していった。それが今日の教材である。

何を理解して欲しいという全体像が教師用指導書にあるスライドである。

身近なものから学ぶという方法は賛成である。その例としてコンビニなどがあるが、コンビニを事例としただけでは、先に進まないことが多い。全体像をわかるのではなんだろう

うかと考え、結局、それはメーカーではないかということで、企業を中心に経済の構造を一枚にまとめたのが、スライドの図である。

中学生に、需要曲線や供給曲線の教えるのは無駄である。本当に必要なのを教えることが大事なのではないか。中学生なりにわかるように教材を出して欲しいとおもっている。今の教科書ではろくなことが書いていない、あれでは社会のしくみはわからない。

金融でも、政府でも同じ。特に、政府はルールを作ったり、監視したりしていることが大事ということを理解していない。

もし〇〇がなければと考えさせることが大切である。もし政府がなければどうなるか、もし企業がなくなればどうなるか、などを生徒に考えさせながら授業を作って欲しい。

最後に、このような、ゲーム教材は重要だが、仕掛けが大きい割にはメッセージ性が小さいのが難点だとも思っている。その意味では、仕掛けが小さくてメッセージ性が大きい教材がよいのだが、なかなかよい教材を作るのは難しい。

### 3 時間目 野間敏克先生「歴史的分野を経済で読み解く＜バブルの発生と崩壊＞」

はじめに 目的と内容

バブルは公民よりも歴史で扱われているよという情報があった。教科書で確認したら、バブルという言葉はたしかに歴史で使われている。しかし、戦後史は経済については少ない。バブル以降は経済について触れていない、

公民の教科書では、歴史より扱いが少ない。教科書によっては出てこないこともある。

#### 1 バブルとはなんだったのか

80年代の日本のバブルをグラフで確認したい。株価と地価の変動があり、はじまりとピークは少しずつがある。

バブルには定義がある。それは、ファンダメンタルを越えた現象。検証の方法もある。世界のバブルを見てみよう。

チューリップバブル、南海泡沫会社事件、アメリカ大恐慌、ブラックマンデー、IT バブル、リーマンショックなどある。

バブルには共通の現象がある

きっかけはまとも、新しそうなものがからむ、投機的参加者、参加者のひろがりの四つである。

バブルの何が悪いか？

強欲者だけが被害を受けるのではなく、経済全体が不安定化、後遺症が大きい（不良債権問題、金融危機など）、まじめに働くより投機経済になってしまう、市場の失敗の一つではないか。だから 防止する必要あり、処理方法をあらかじめ準備することが必要

#### 2 80年代のバブルの物語

登場人物 日銀、銀行、企業、一般庶民、政府、

犯人探しのなかでは日銀が一番多く出されることが多い。きっかけは1985年プラザ合意である。このときは、教科書どおりの金融緩和政策が行われた。つまり、日銀が出すのがマネタリーベース、それが使えるようになるとマネーサプライ、マネーストックであり、それが増加した。つまり、世の中にお金が出回った

この間に企業行動のゆがみが進行した。

一つは銀行である。背景には、製造業企業の銀行離れがあった。そこで、中小企業金融（しかしすぐには上手くいかない）や、不動産業に対して多く貸す（不動産担保融資）こ

とにむかった。

企業もほめられたものではない。財テクという言葉が登場。ダイエーのケース（土地を担保に出店をする）、高株価を利用したエクイティファイナンスなども行われた。

庶民が参加するケースも出る。NTT株式公開でブームが到来した。

バブルの仕組みの図（小巻先生のものを簡略化）を紹介する。

バブルの不思議。バブル期に物価は安定、企業は円高差益で稼いでいる。バブル原因として金融自由化もあるのではという説がある（この場合は大蔵省が悪いという説となる）バブルの崩壊のプロセス。三重野日銀総裁時代の公定歩合操作が引き金になっていることは事実。

だから、犯人は一人には絞れない。

### 3 時代をさかのぼって考える

なぜプラザ合意となったか？

理由1 日本の経常収支の黒字と円高

円高になるはずだが、81年レーガン政権登場、強いアメリカ政策、高金利政策（ボルカーによるインフレ退治もある）、ドル高があった（双子の赤字に）ハードランディングを避けるためにプラザ合意となる。

理由2 国債を使うようになって（国債化）国際化、自由化が進行

国債市場ができる（規制のなかに国債という自由金利の市場ができる）、日本企業の国際化のなかで規制金利から為替や金利の自由化がすすむ、アメリカから日本に対して自由化をもとめる圧力（日米円ドル委員会←アメリカの陰謀説）がかかる。

理由3 1970年の変動

71年のニクソンショック、変動相場制への移行、第一次石油危機、第二次石油危機と続く。

理由4 ブレトンウッズ体制の矛盾

固定相場制の矛盾が爆発。結果として、変動相場制への移動。

### 4 現在につながるバブル後遺症

不良債権問題

わかっていたのだが進まなかった不良債権処理 97年金融危機 地銀、都銀、長期信用銀行へ

デフレの定義（内閣府）消費者物価指数が2年連続低下した場合をいう。99年からバブルとなったというのが多数派。細かい対策をしてもうまくゆかないので、99年ゼロ金利政策、01年量的金融緩和政策と続き、その結果としての円安がすすむ。

小泉時代になり、景気はあがっていた（いざなぎ景気）。竹中金融担当大臣時代（金融再生プログラム）に本気で不良債権処理をした。同時に企業再生産業再生機構を作った。

その後、サブプライム問題が起こる。基本は同じだが、新しい証券化技術、投資銀行、格付け機関などの新しい加担者がでる。国境を越えた問題となった。

ギリシャの危機、ユーロ危機がすすむ

日本国債は？ ギリシャよりもっと悪い 日本の国債の利回りは低い（財政状況の悪さから見ると信じがたい）バブルじゃないの？

黒田さん就任後、利回りはあがっている（金融緩和で長期国債の値段はさがっている）

最後に、アベノミクスを少し考えたい。ポイントは、お金は増やした、その増えたお金がどう使われるか？である。財サービス市場にいてほしいと思っているが、資産市場に

いってバブルになるのでは（ここだとやばい）という説もある。一番望ましいのは、労働市場にあって給料があがればいいが…

期待に働きかけることが重要である。

#### 質疑

1 政府の失敗と市場の失敗はどちらが大きいのか？

答え どちらも問題。政府の失敗にも注目させることが大事。

2 優秀な人物がいるのに日銀はなぜ失敗するのか？

答え 日銀や官僚は過去のことはよく勉強しているが、現状や将来に対しては得意ではないからだろうと思う。

#### 4時間目「みんなで語ろう<経済教育を授業でどう生かすか>」

参加の先生がたとエコノミスト、教育関係者が膝を突き合わせて疑問や要望を交換する時間である。

コメンテーターには、篠原総一先生、野間敏克先生、三重大大学の山根栄次先生、椋山女学院大学の水野英雄先生、三枝利多先生の5人が担当。5つのグループを順番に回って密度の濃い話し合いを行った。



熱心に話し合いをする先生方

以上で名古屋の二日間の教室を無事終了した。